

陸上競技専門部 普及

陸上競技専門部
新座総合技術高等学校 秋山 裕輝

1. 現状

陸上競技専門部の登録人数については、2010年に4773名であったが、2012年に5000名を超えて以来、年々増加しており、今年度は5527名となっている。以下の表1が過去5年間の埼玉県の登録人数推移である。男女の内訳については、男子2に対して女子が1の割合であることには変わりなく、この比率はほぼ毎年変化はない。また、比較対象として都道府県別登録者数を表2に記した。現在は47都道府県中7番目の登録者数である。

表 1 : 登録人数
年都道府県別登録者数

	男子	女子	合計
2014年	3,512	1,680	5,192
2015年	3,345	1,712	5,057
2016年	3,448	1,780	5,228
2017年	3,414	1,859	5,273
2018年	3,670	1,857	5,527

(高校体育連盟統計資料より)

表2:2017

	都道府県	高校生の登録者数
1	東京	8,459名
2	愛知	7,860名
3	大阪	6,564名
4	神奈川	5,967名
5	兵庫	5,817名
6	千葉	5,787名
7	埼玉	5,686名

(日本陸連ホームページより抜粋)

2. 活動内容

拠点校別強化練習会

陸上競技全体の登録者数は増えているが、種目別の人数で考えると短距離種目や長距離種目に比べて、投擲種目に取り組む選手の数は多くない。専門的な指導が難しいことに加えて、練習場所の確保も難しいことが考えられる。現在の取り組みとしては指導や練習場所の確保が難しい円盤投とハンマー投の「拠点校別強化練習会」というものを実施している。専門的な指導者がいる学校に依頼をして参加希望者を受け入れてもらい強化練習会を行うというものである。埼玉県陸上競技協会のホームページにて参加者の希望を呼びかけ、拠点校となっている指導者に連絡を取り、参加してもらう流れである。投擲種目で一番起きてはならないことは、投擲物による事故であるが、複数の選手が集まるなかでも安全面の配慮をしながら毎年継続して実施できている取り組みである。

また、投擲種目に取り組んでいる選手は他種目に比べ、人数が少ないため、各学校では1人で投げの練習をしなければならない事も少なくない。人数が少ないということでモチベーションの維持が困難であったり、自分の投擲動作に対してのフィードバックなどもすぐに得られにくく、自分の動作や練習方法は正しいのか迷いながら取り組まなければならない状況も生まれやすい。しかし、拠点校別強化練習会では、同一種目の選手が集まるため横のつながりも築きながらお互いに切磋琢磨できる環境となっており、普及に加えて強化にも良い影響がある。

3. 今後の課題

裾野の広がり無くして強化は成り立たないと言われるように強化のためには普及が欠かせない。表2で記した都道府県別登録者数で上位を占める都道府県はインターハイでも都道府県別総合得点にて上位を占めており、競技人口と競技力は密接に関係している。今後の課題としては高校で活躍する選手を増やしていくためにも普及を進めることが必要であり、中学校との連携をより密にしながら拠点校別練習会などの行事にも、より参加してもらえるよう取り組まなければならない。